

二〇一九年十二月三日

落暉射す紅葉明りや切通し  
黄落の金の日射しや切通し  
古民家へ翳す大樹の紅葉かな  
うららかや農園遊具古タイヤ  
臍をすり抜けてゆく鎌鼬  
浮寝鳥嘴差し入れし羽毛かな  
古民家の枯葉吹きこむ通り土間  
軒高く積み上ぐ割木冬来る  
日溜まりに手話する子らの日向ぼこ

二〇一九年十二月二日

俳人の指を折る間も銀杏散る  
寒風や雁木を洗ふ波高し  
古民家の障子戸重し大敷居  
鈴なりの柚子黄金の日をはじく  
肥を得るための驢馬てふ園小春

二〇一九年十二月一日

湾鏡冬満月の揺蕩ふて  
陸軍墓地銀杏落葉にうずもれて  
千枚漬はりはり食みて恙なし  
ふつふつと躍る湯豆腐猪口二つ  
冬日差お百度石のやや傾ぎ

二〇一九年十二月一日

再会を今年こそはと年賀書く

ぼんこ  
うつぎ  
満天  
はく子  
素秀  
たか子  
素秀  
菜々  
智恵子  
菜々  
よう子  
うつぎ  
はく子  
うつぎ  
三刀  
ぼんこ  
菜々  
宏虎  
明日香  
満天

裸木に輪廻の芽吹きしかとあり

障子穴埋めて桜を散らしけり  
手入れ後の農機具日向ぼこのごと  
ついてくる枯葉と競ひゆく歩道  
握りしむ懐炉代わりの缶コーヒー

二〇一九年十二月九日

冬ざるる能登の岬の空き旅館  
裸木の力みなぎる枝先かな  
散り敷ける五彩の紅葉日をはじく  
膝掛けを肩にも掛けて句に籠る  
アフガンにいのちを捧げ紅葉散る

二〇一九年十二月八日

園児らの無垢の瞳や聖夜劇  
福福とみな粧ひて四圍の山  
擦り減りし船板塀や路地寒し

二〇一九年十二月七日

ボランティアでできる幸せ師走来る  
路線図の色の数多や街師走  
月寒しビルに一つの窓明かり

毎日句会みのる選・二〇一九年十二月一日

たか子  
たか子  
こすもす  
素秀  
素秀  
そうけい  
ぼんこ  
ぼんこ  
智恵子  
せいじ  
みづき  
せいじ  
よう子  
明日香  
なつき  
そうけい